



〒975-0031
福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
TEL:(0244)26-1314
FAX:(0244)26-1318
E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp

令和 7 年度

第 3 回算数・数学科授業研究会

- 日 時：令和 7 年 10 月 14 日（火）13：10～16：30
- 会 場：南相馬市立原町第三小学校（南相馬市原町区上町一丁目 13 番地）
- 参加者：小学校教員 36 名、中学校教員 1 名、その他 3 名 計 40 名
- 内 容：○算数・数学科イノベーション人材育成推進教員による公開授業
（たしざん）授業者 南相馬市立原町第三小学校 教諭 鈴木 孝成
○グループ別による事後協議会
○講演「全国学力・学習状況調査を踏まえた学習指導の充実」
国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部
学力調査官兼教育課程調査官 小山 雅史 様



【研修のまとめ】

事後研究会では、前回に引き続き、参観者のみなさんが授業者の思いや本時の手立てに寄り添い、自分事として授業を捉え授業改善に向けた建設的なアイデアを進んで伝える姿が見られたことが、授業者と参観者の両者にとって大変有意義な時間となりました。また、小山先生の講演では、教材の価値や数学的な表現の特徴をおさえた自己選択の場の在り方、単元配列を重視したカリキュラム・マネジメントといった内容を中心に、幅広い内容について具体的な事例にふれながらお話いただきました。

〔授業のポイント〕

- 半具体物（ブロック）や図に加えて、数や記号といった数学的な表現を式と関連付けることで、数学的な見方・考え方を働かせながら子どもが意味理解を深めることができるように努めている。

〔指導助言〕

- 子どもを見取る際、言動の背後を探りながら受けとめることが大切である。
（例えば、「 $9 + 4$ 」の立式を確認している時、「 $4 + 9$ でもいいよ。」と言った子どもは、単なる理解不足なのか、それとも問題文から離れて交換法則に関連する話をしたかったのか、といったように解釈の可能性を広げること）

研修の感想

- 子どもの困り感をどのように引き出すのか、10 のまよりの重要性にどうやって気付かせるのかなど、教師の目線で参考になることが多かったです。
- 経験年数が異なる先生方が同じ班にいたからこそ、事後協議会が大きな宝物となりました。また、「自分だったらどうするか」という視点で考えることで、多くの学びを得ることができました。
- 主体的な学びの実践をするために、子どもが選択できる機会を設けていきたいと感じました。
- 教師の働きかけ次第で、1 年生でも学び方（ペア学習など）を身に付けることができるのだと感じました。
- 単位時間に何をねらうのかということも大事ですが、単元や年間、そして 6 年間でどのような見方・考え方を身に付けさせたいのかを、学校全体で考えていく必要があることを学びました。

